

第1回光市立学校の将来の在り方検討会議 会議録

1 開催日時

平成28年8月29日(月) 午後7時00分～午後8時38分

2 開催場所

光市教育委員会1階ホール

3 出席者

(1) 委員

山口大学教育学部	教授	霜川 正幸
光市社会福祉協議会	会長	西川 公博
光市コミュニティ連絡協議会	会長	宮尾 智義
光市母子寡婦福祉連合会	会長	中村 恵美子
光市肢体不自由児(者)父母の会	会長	上田 隆三
光市小中学校PTA連合会		橋本 正美
幼稚園保護者		堤 由紀子
保育園保護者		松本 奈津美
東光保育園	園長	渡邊 正善
公募委員		梅山 健史
公募委員		山崎 淳江
浅江小学校学校運営協議会	委員	上原 廣見
光井小学校学校運営協議会	委員	野村 香子
島田中学校学校運営協議会	委員	栗本 雅文
大和中学校学校運営協議会	委員	廣政 晴美
光市立小学校校長会	会長	酒井 宏高
光市立中学校校長会	会長	伊藤 幸子

(2) 事務局

能美教育長、蔵下教育部長、和田学校教育課長、奥屋学校教育課主幹、木本学校教育課コミュニティ・スクールコンダクター、永光学校教育課教育企画担当、太田教育総務課長、久岡教育総務課管理係長、村上光市教育開発研究所主任研究員

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 教育長あいさつ
- (4) 自己紹介
- (5) 会長、副会長選出
- (6) 会長、副会長あいさつ
- (7) 議 事
 - ア 会議の設置及び運営について
 - イ 光市の学校教育の現状について
 - ウ 「光市立学校の将来の在り方について ～基本的な考え方～」について
 - (ア) これまでの取組みと現状
 - (イ) 国の動向
 - (ウ) 光市が進める教育環境づくり
 - (エ) 地域とともにある学校づくりのさらなる進化(コミュニティ・スクールとしての新たな形)
 - (オ) 小中連携を深化・充実し小中一貫教育に発展
 - エ 今後の進め方
- (8) その他
- (9) 閉 会

5 議事録（要旨）

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状交付
教育長より各委員に委嘱状を交付。

- (3) 教育長あいさつ

こんばんは。皆様方には、本検討会議の委員をお引き受けいただきますとともに、今日は、ご多用の中を、しかも、こうした時間帯にご出席をいただき、ありがとうございます。

平成28年度も5か月が経過いたしました。光市の子どもたちは、多くの皆様方のお力添えをいただきながら、各学校の努力により、個別の課題は決して少なくはありませんが、全体として落ち着いた学校生活を送ってくれています。私自身、各学校で、また、それぞれの地域で、安定した子どもたちの姿を見て、大変心強く思っているところであります。

現在、急速に変化する社会情勢の中で、子どもたちの「育ち」の環境は大変厳しいものがあります。しかし、こうした厳しい社会であるからこそ、これからの社会を担う子どもたち一人ひとりに、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」、これを、しっか

りと育んでいくことが学校教育の使命であります。

こうしたことから、本市では、平成24年度から、「連携・協働を重視した学校づくり」を柱として、積極的に教育施策を展開してまいりました。連携・協働の具体は、「小中連携をはじめとする学校間・校種間連携」と「学校と家庭、地域、この三者協働による学校教育の取組」であります。そして、この二つの視点から、チーム光として積極的に新たな「動き」を創りながら、子どもたちの「生きる力」を育みたい。このように考えているところであります。

一方、今、全国的に少子高齢化が進み、これが大きな課題になっています。これは、本市も同様で、本市の児童生徒数の推移を見ますと、本年5月1日時点で、小学校の児童数が2400人強、中学校の生徒数が1300人強、合計3750人あまりで、直近のピーク時、昭和57年の9300人弱と比べ、当時の41%程度となっています。

このような中、本市では、総合計画の後期基本計画に、「少子化の進行により、児童生徒数の減少が予想される中、教育環境の充実と教育力の維持・向上の観点から、学校の在り方について検討する」ことを掲げ、教育開発研究所において、平成21年度に、「教育環境や教育水準の維持・向上に向けての学校の在り方」をテーマに、まず、教職員の視点から本市が目指す学校、「よい学校」とはどのような学校なのか、その具体像を検討し、平成22年度には、保護者・地域の方々にアンケートを実施するなど、保護者・地域住民から見た「よい学校」の具体像を調査し、「学校・家庭・地域が連携した教育活動、『よい学校』の姿を三者が共有し、協働して共に教育活動に取り組む」という双方向型のシステムづくりが必要ということをもとめていただき、平成23年度からのコミュニティ・スクールについての調査研究へと発展しました。また、並行して、平成22年度からの2年間は、大和地域の4小学校1中学校で、国の指定を受け、小中連携教育の研究にも取り組んだところであります。そして、このような取組を経て、さらに、平成26年度には、教育開発研究所に教育環境部会を設置し、「今後のあるべき学校像」についての調査研究を進めるとともに、昨年度は、光市立学校の在り方検討プロジェクトにおいて、お手元の資料「光市立学校の将来の在り方について～基本的な考え方～」をおまとめいただき、この検討会議に繋げてまいったところであります。

今後は、皆様方から、幅広いご意見をいただきながら、平成29年度の秋頃を目途に、「光市立学校の将来構想案」をまとめ、市教委として構想を持った上で、以後、各地域の保護者や地域の皆様との意見交換等を経て、実施計画に結ぶことができると考えているところであります。2年間にわたる検討会議となりますが、本市の将来を担う子どもたちのために、ご支援・ご協力をいただきますようお願いを申し上げ、冒頭のご挨拶

とさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

(4) 自己紹介

(5) 会長、副会長選出

光市立学校の将来の在り方検討会議設置要綱第3条の規定に基づき、委員の互選により、会長に霜川委員、副会長は会長の指名により西川委員が選出される。

(6) 会長、副会長あいさつ

【会長】

これからの学校づくりは地域とつながる学校、福祉とのつながりが必要であり、これらを大切にしながら進めていきたい。

【副会長】

社会福祉協議会会長を8年間務めてきた。教育に関しては素人だが、社協としては福祉教育を推進しており、光市が早くから進めているコミュニティ・スクールにおいて、地区社協、学校、PTA、家庭など、多方面で連携して取り組んでいる。

会長のご指導を受けながら、しっかりとサポートしていきたい。

(7) 議事

会議の設置及び目的について

(質疑等なし)

光市の学校教育について

【事務局】

基本的なデータ等を紹介

・学校数

小学校 11 校、中学校 5 校（1小1中が3校区、4小1中が2校区）

・児童生徒数

ピーク時の昭和57年度(9,273人)から徐々に減少し、平成28年度は約41%(3,757人)。今後数年間、年間100人程度減少していく傾向にある。

・光市が進める学校教育について

(資料「平成28年度 光市の学校教育」を用いて、連携・協働教育の推進とコミュニティ・スクールを2つの柱として進めていることを説明)

(質疑等)

【委員】

このリーフレット(光市の学校教育)はどこで配布されているのか。

【事務局】

学校に配布しているが、保護者には届いていない。

【会長】

光市の学校教育の内容について、どのように発信されているか。

【事務局】

市教委のホームページに同じものを掲載されている。

【委員】

幼稚園及び保育園から小学校、小学校から中学校への円滑な接続について話があった。島田小学校では4、5年生から教科担任制となっているが、他の学校でもこのような取り組みはあるか。

【事務局】

島田小学校は先進的に取り組んでいる。

光市立の学校では、内容は異なるが円滑な接続に関する取り組みは行っている。

幼稚園・保育園との接続については、まずは教員の意識の垣根をなくすことが必要と考えており、小・中学校の教員が夏休み期間中に幼稚園及び保育園に研修に行くなどの取り組みを進めている。

【会長】

児童生徒数は説明にあったが、教員数はどの程度か。

児童生徒数の減少は教員数の減少とも関係しており、コミュニティ・スクールを進めている状況において、これからは教員数のことも頭においておく必要があると思う。

【事務局】

小学校 202 人、中学校 112 人 合計 314 人

【会長】

市内小中学校で『複式』を取り入れている学校は何校か。

【事務局】

東荷小、塩田小の2校

【会長】

光市内の中学校から市内の高校への進学率は。

【事務局】

6割程度ではないかと受け止めている。

周南市、下松市、岩国市等の高校にも進学している。

かなりの数が他市に進学しているという状況がある中で、高校生も地域づくりの中心としてがんばってほしいと思っている。

「光市立学校の将来の在り方について ～基本的な考え方～」について

【事務局】

構成や各章の内容について概要説明。

※「これまでの取組みと現状」から「光市が進める教育環境づくり」まで
～概要説明後～

【会 長】

かなりボリュームのあるものとなっている。

3～4分時間をとるので目を通していただきたい。

(質疑等)

【会 長】

それぞれのお立場から積極的に発言をお願いしたい。

「光市の現状」の部分でコミュニティ・スクールや小中連携の記述があるが、この会議の委員には学校運営協議会の委員さんもいるので、実際にどのような感覚を持っているか紹介してもらえないか。

【委 員】

光井小で地域コーディネーターを務めているが、年度終了時のアンケートで振り返りを行っている。学習状況という部分では踏み込めないが、委員として何年間か活動するにつれ、先生方の思いがわかりやすくなってきた。地域、保護者、先生方との距離が近くなったと思う。

【委 員】

大和中学校の委員を務めている。自分の子どもも20歳を過ぎ、小中学校の児童生徒とは距離があるという意識がある。また、自分の子どもが通っていた頃は、こういうことは考えられなかったという気持ちで会議に参加している。かつては、保護者や子ども、地域がもっと密着していたと思う。

今、なぜこうしたことが復活してきたのかという思いがある。

【委 員】

今年度から島田中の委員になった。他の地域のことはよくわからないが、島田について言えば、地域がとても元気でコミュニティ・スクールも盛り上がり、その流れが中学校につながり、島田中の活動も活発化している。

本年度の取組みの一例として、「花の日」を紹介する。地域の方が花を持ち寄って校内に生け花を置いてくれている。地域の方々が学校に入りやすい環境が出来ていると思う。

【委 員】

今年から浅江中学校の委員になった。浅江中学校においては、小・中連携の一環として拡大運営協議会を行ったが、先生方が非常に一生懸命やっているという印象がある。

1 小学校 1 中学校で小学校から中学校にそのまま進む校区なので、その意味では小中一貫に向けた取り組みが進んでいると感じている。

【委員】

小中連携ということがありました。が、学校の立場から、実際にコミュニティ・スクールに取り組みながら、学校や地域の関係がどのように変化したかなど、感想をお聞かせいただきたいと思う。

【委員】

先ほど、学校教育課長さんから説明のあった「光市の学校教育」の見開き左下にある取組例は概ね行っている。小・中学校の教員の乗り入れ授業やチームティーチングを行っている。また、小中一貫に近い形を創ろうということで、小・中学校9年間のカリキュラム作成を行っている。

コミュニティ・スクールについては、浅江地域はすばらしい協力体制があり、成果といえばきりが無い。

【委員】

この4月に浅江小に赴任した。浅江地域のコミュニティ・スクールの取組みが非常に多く驚いている。

拡大学校運営協議会については、この夏休みに、小・中学校の教職員やコミュニティ・スクールの関係者、地域住民も合わせて約110名の参加があった。昨年度に続き2回目の開催となったが、テーマは「15歳の浅江っ子像」、つまり15歳でこんな子どもであってほしい、そうした望ましい子ども像について、多くの項目が出てきたが、今年度は3つに絞っている。

「地域が大好きな子ども」(郷土愛を育てる)

「自分に自信が持てる子ども」(自己肯定感を育成する)

「人とつながりふれあう子ども」(人間愛)

具体的な取組みの案も多く出たが、今すぐ出来るものとして、浅江地区全体で

「笑顔であいさつプラスワン大作戦」に取り組むこととしている。

笑顔であいさつすることに加え、プラスワンの部分は「がんばってるか」や「元気にしてるか」など、部活のことなど何でも、ハイタッチでも、何か一つ付け加えようとしている。9月からは浅江地区でこのようなやり取りをする光景が見掛けられると思う。

【会長】

光市の教育の現状という部分で、コミュニティ・スクールの成果や小中連携の成果をあげてもらった。

こうした取組みについて、公募委員さんはどう感じているか聞かせてほしい。

【委員】

「光市立学校の将来の在り方について ～基本的な考え方～」を読んだ。

私は会社勤めをしていたが、会社では予算確保して計画を立て、製品の製造・販売を行い、その後は評価を行っている。

計画に対して、誰がいつからいつまでを評価してどうであったかという具体的なも

のが必要。この冊子にはよいことがたくさん書いてあると思うので、先ほどの浅江地区の取組みにあったように、例えば「9月から行う」などの具体性を持ったものであってほしいと思う。

私の孫が今年から1年生。光市がここでの取組みを進めることによって、私の孫が6年生、卒業の頃はどうなっているか、スケジュールを決めて計画を立ててほしいと思っている。

【会 長】

コミュニティ・スクールも含めて、効果測定は非常に大切なこと。10年や15年といった目標をどこに設定してどう進めていくかというマネジメントも重要なことと思う。

【委 員】

子どもと一緒に歩いていると、中学生がよくあいさつしてくれる。

それを子どもが真似をするようになったが、とても良いことだと思う。

【委 員】

計画に対する評価ということは大切と思う。

人に関する事なので簡単に評価することは難しいと思うが、ある程度は反省と評価を行って次の段階に進むということは大事なことと思う。

【会 長】

光市の教育の現状ということで、コミュニティ・スクールや小中連携についてたくさんのご意見をいただいている。

光市が取り組む内容は非常にレベルの高いもので全国的にもトップクラスの評価を受けているが、こうした財産を大切にしながら、これからの学校づくりに取り組んでいきたいと考えている。

こうしたことが、次回の議題の「地域とともにある学校づくりの更なる進化」や「小中連携を深化」につながるものと考えている。

今日は主に議事ウの（ア）の部分しかできななかったが、（イ）・（ウ）については各委員さんが次回までに読み込んで、ご質問等を出してもらいたい。

当初予定の途中までとなったが、事務局の方に進行を返したい。

【事務局】

「光市立学校の将来の在り方について ～基本的な考え方～」について全て説明することが出来なかったため、第2回会議は続きから進める。

その後、基本構想（案）をお示しし、部分的に区切りながら、意見等を頂き事務局で修正を繰り返すという進め方になる。

会議については、平成29年度の秋頃までに5～6回の会議を重ね、この基本構想（案）取りまとめたいと考えている。

【会 長】

確認とお願いがある。今日はウ（ア）までしかできていないので、次回は（イ）・

(ウ)の質疑と(エ)・(オ)の説明と質疑が残っている。基本構想(案)を提示するのはその後であるべきと思う。そこは混乱しないように検討を願う。

(8) その他

【事務局】

次回日程について

平成28年11月24日(木) 18時

場所：教育委員会1階ホール

【事務局】

その他、全体を通して何か質問はあるか。

【委員】

いつも福祉の関係でお世話になっている。車椅子の子ども等を目にするが、今日の議題にもあった連携教育等も必要だが、こうした子ども達への学校の環境なども含めて話を進めていただきたいと思う。

【会長】

基本構想(案)のたたき台にこうした内容も取り込むことはとても良いこと。ぜひ宜しく願いしたい。

(9) 閉会(20:38)